

大名無用 前篇

原作並脚色者
監督者 摄影者

用前篇

「大名無用」帝キネ矢内政治作日附。



市大嵐實久片版中實 谷矢上
川野川野桐東村川 口内島
幅廣延あ恒豊小延 政
十三延か 郡郎二笑江男界福松 神治量

「閉門申付けられ、心の懨みを酒にまぎらせてゐた。或る日江戸より急使ありて但馬守の病死を報じ。家督相續の席へ即刻身をひき、その酒席に持参した毒酒のため苦悶せんにより、忠臣野田文左衛門はいたく心を痛めたがその頃丁度相生町に入り込んだ江戸へ持初切が春久さくへはせなる町へ身代りとして急遽江戸へ向はせられた。初か赤ん坊の頃から拾つて育てた仁右衛門は旅中初度が居なくなつたので探し求めた。そして途中も暮春の初度が間違つて通いでて遅くなり同じく江戸へ向つた。親類許定の日一同は悪人の言ふを信じ春久を排して爲の助を渡路姫ら嬌らしくて相生家の相繼をしていくべく評定は進めら乗れ込む事を知つた兵庫は早くも伏勢を手配して初次野田等の駕を襲はしめた。(以上前篇)